

# 流域治水プロジェクト2.0

～流域治水の加速化・深化～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

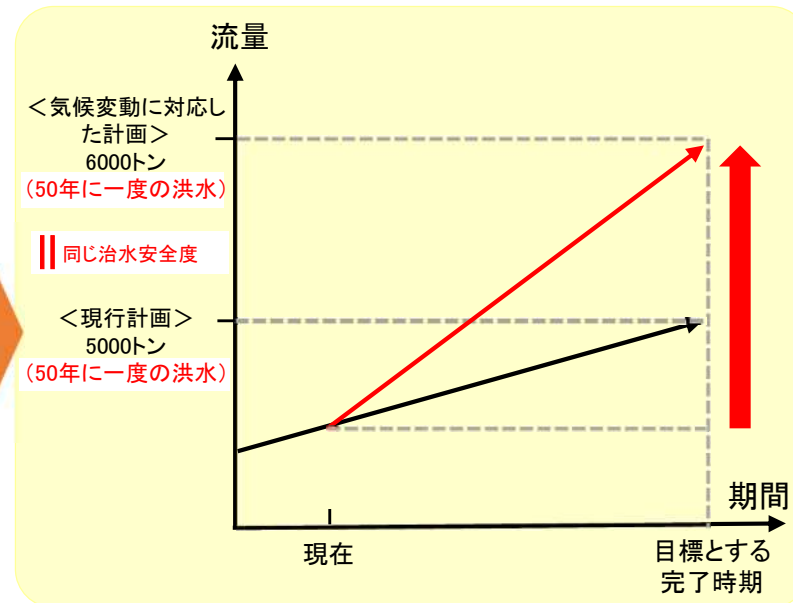
## 現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

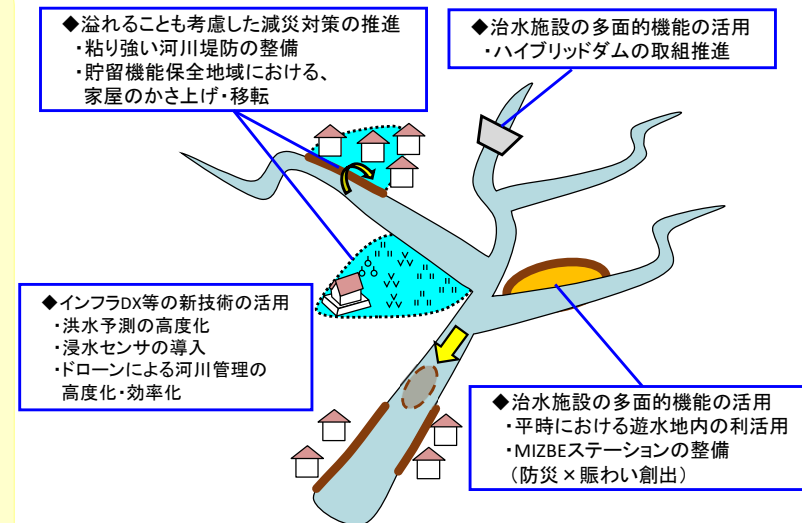
## 必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する。
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

## 必要な対応のイメージ



## 様々な手法の活用イメージ



降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】

流量

約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、  
目標流量を1.2倍に引き上げる必要

※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、  
様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

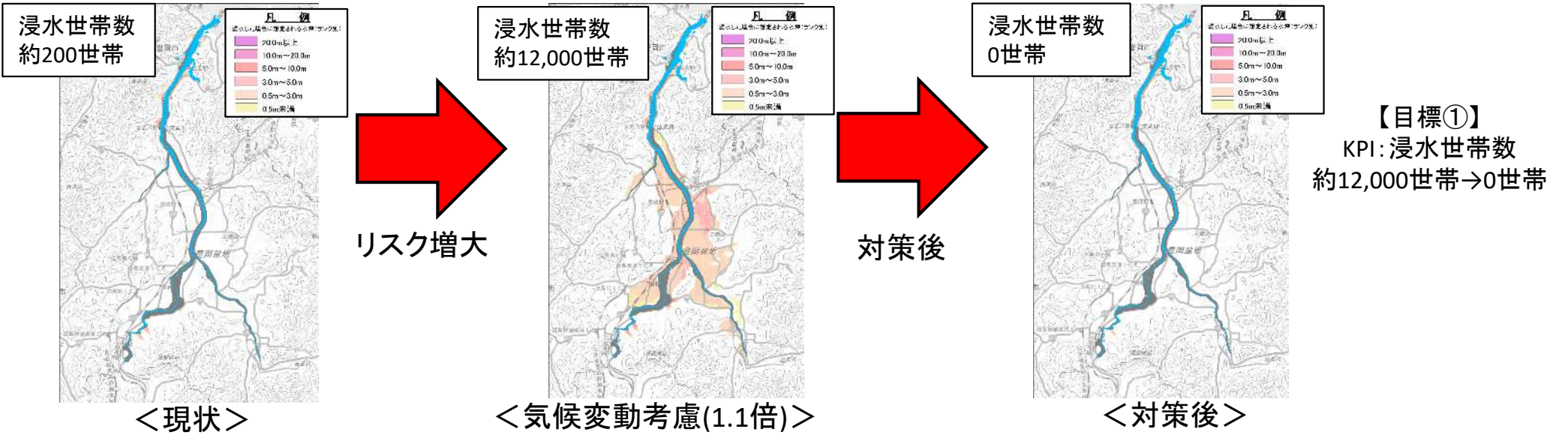
⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

# 気候変動に伴う水害リスクの増大

○気候変動の影響による降雨量増加を考慮した河川整備計画規模の洪水（H16.10洪水）が発生した場合、円山川流域では浸水世帯数が約12,000世帯（現況の約60倍）になると想定され、事業の実施により、浸水被害が0世帯に軽減される。

## ■気候変動に伴う水害リスクの増大

### 国管理区間からの外水氾濫による浸水範囲・浸水世帯数



## ■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

### 【目標①】気候変動による降雨量増加後のH16.10洪水規模に対する安全の確保

円山川本川：河口(0.0k)～赤崎橋(26.2k)、奈佐川：下流端(0.0k)～上流端(4.0k)、出石川：下流端(0.0k)～上流端(8.6k)

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約12,000世帯の浸水被害を解消	河道掘削：430万m <sup>3</sup> 更なる洪水調節施設の検討	概ね20年
	兵庫県	流出抑制による浸水被害（外水・内水）の軽減	更なるため池の活用、更なる雨水貯留浸透施設の整備	-
	兵庫県	土砂災害対策を推進	山地防災・土砂災害対策計画に基づき、土砂災害対策を県下全域で年間50箇所新規着手	-
被害を減らす対象を	豊岡市	新たな居住に対し、立地を規制する居住者の命を守る	災害危険区域による規制を継続して実施	-
	養父市 朝来市	新たな居住に対し、立地を規制する居住者の命を守る	法指定による浸水被害防止区域の検討 水害リスクマップに基づく土地利用や住まい方の工夫	-
旧・被害の軽減・早期復興	豊岡市 養父市 朝来市	円滑かつ迅速な避難の確保	区・地域コミュニティでの防災・減災活動に対する支援継続して実施	-

### 【目標②】内水被害の軽減

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
被害の軽減・復興	豊岡市 養父市 朝来市	浸水域のリアルタイム把握	ワンコイン浸水センサによるリアルタイムでの情報把握	概ね5年
	豊岡市	下水道による浸水対策の計画的推進	雨水管理総合計画（予定）	概ね5年
	豊岡市 朝来市	内水浸水発生時の円滑かつ迅速な避難の確保	内水ハザードマップの作製・公表	概ね3年

# 円山川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

R6.3更新(2.0策定)

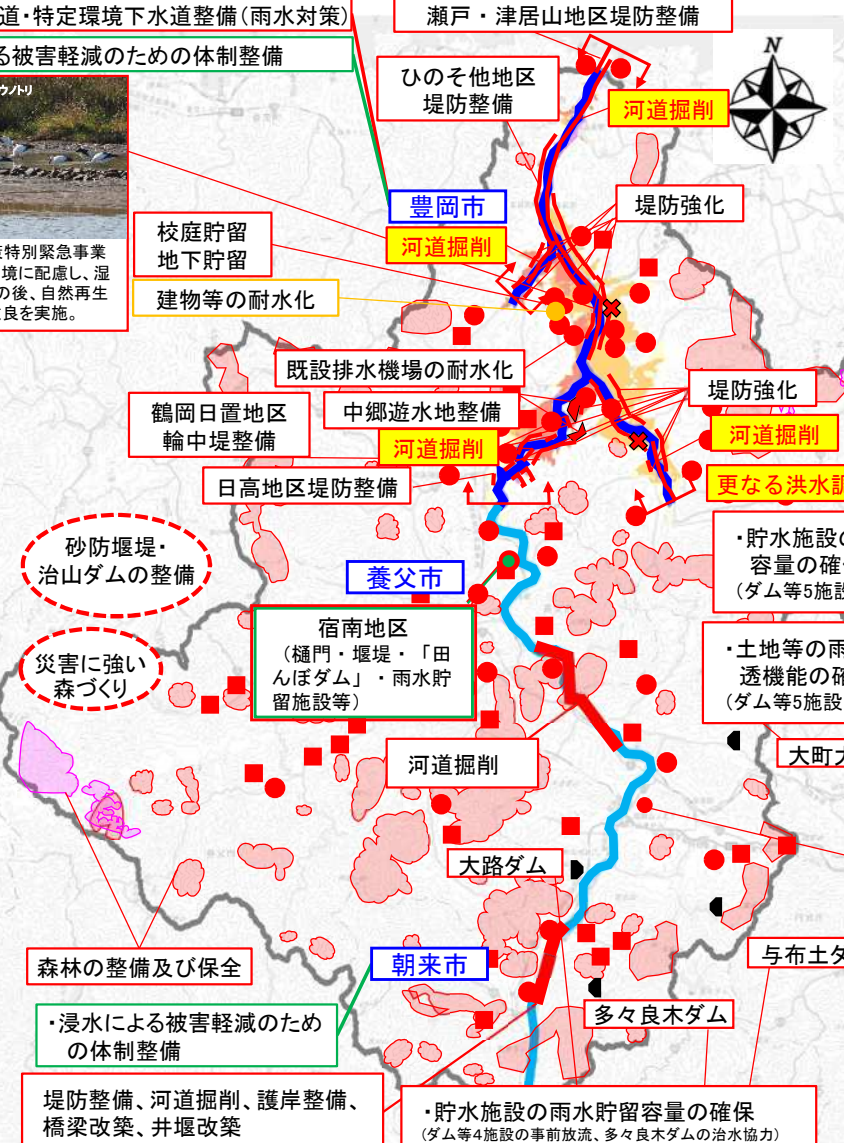
～山から海までコウノトリ羽ばたく円山川流域をみんなで治める流域治水対策～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、以下の取組を一層推進していくこととし、さらに、円山川等の国管理区間においては、**気候変動(2℃上昇)下でも目標とする治水安全度を維持するため、戦後最大流量を記録した平成16年10月洪水に対し2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水に対して、現行の治水安全度を確保し、洪水による災害の防止又は軽減を図る。**

○また、流域の8割以上が山地、豊岡市街地付近は地形勾配が緩やかな円山川の特徴を踏まえ、流域が一体となった総合的な治水対策の取組や流域外への排水機場の強化等を進めてきたが、**気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来にわたって安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法(以下「法」という。)**の適用を行い、**更なる治水対策を推進する。**



- 凡例**
- × 平成16年台風23号 堤防決壊箇所(国)
  - 対象流域
  - 国管理区間
  - 県管理区間
  - 林野庁 林地
  - 森林整備センター 林地
  - 校庭等貯留等
  - 田んぼダム等
- 水害リスクマップ (浸水50cm以上)**
- 高頻度(1/10)
  - 中高頻度(1/30)
  - 中頻度(1/50)
  - 中低頻度(1/100)
  - 想定最大規模



**■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**

- 遊水地(併せて湿地を創出・川と遊水地と支川と田んぼの連続性確保)、堤防整備、輪中堤整備、堤防強化、河道掘削、護岸、橋梁改築、井堰改築、堆積土砂撤去、河川管理施設等の老朽化対策、**更なる洪水調節施設の検討**等
- 下水道の整備(雨水対策) ・**更なる**ため池、水田、校庭等における雨水貯留浸透機能の確保
- 利水ダム等5ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(国、兵庫県、豊岡市、朝来市、関西電力(株))
- 森林の整備及び保全(災害に強い森づくり(県民緑税)等含む)
- 砂防堰堤・治山ダムの整備 ・開発行為に伴う調整池の設置(条例による義務化)
- 法指定による雨水浸透阻害行為の規則、貯留機能保全区間の指定の検討**等

**■ 被害対象を減少させるための対策** ※今後、関係機関と連携し対策検討

- 建物等の耐水機能の確保・維持(敷地の嵩上げ、電気設備の高所設置等)
- 法指定による浸水被害防止区域の検討**
- 水害リスクマップに基づく土地利用や住まい方の工夫**

**■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策** ※今後、関係機関と連携し対策検討

- 住民参加型ワークショップの実施、水防訓練、一斉避難訓練、地域防災学習会、講演会
- 避難行動に関する関係機関調整の実施(要配慮者利用施設における避難確保計画等)
- 水位計・監視カメラの設置・情報提供 **河川管理施設の自動化・遠隔化**
- 住民自ら作成する防災マップ、マイ・タイムライン、マイ避難カードの作成支援
- 洪水浸水想定区域等(想定最大規模)を全管理河川で公表
- まるごとまちごとハザードマップ、洪水ハザードマップの高度化(兵庫県CGハザードマップによる防災情報の発信)
- 市への水位予測情報の発信 **ワンコイン浸水センサによるリアルタイムでの情報発信**
- 兵庫県住宅再建共済制度(フェニックス共済)の加入促進
- 内水ハザードマップの作製・公表** **粘り強い河川堤防の検討・整備**等

平成16年10月台風23号被災時の流木等、円山川流域は山林からの影響を受けやすい。森林の整備及び保全を推進する中で、土砂・流木の流出に配慮した間伐等を実施する。



**特定都市河川指定・流域水害対策計画策定のロードマップ**

対策区間	流域関係者	工程									
		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11~			
特定都市河川の指定 流域水害対策計画の策定	国 県 関係市町 等	合意形成				指定	計画 検討	計画策定	浸水被害対策 の実施		

監視カメラを設置し、住民の方などへ情報を提供する。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。  
 ※兵庫県は、総合治水条例(H24施行)に基づき、河川・下水道対策、流域対策、減災対策の取組を推進中  
 ※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。

※今後、関係者と合意形成を図り指定河川・流域を具体化していく。  
 特定都市河川指定の工程等は、関係者との調整等により変更することがある。

# 円山川水系流域治水プロジェクト

## 氾濫を防ぐ・減らす

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し  
(2°C上昇下でも目標安全度維持)  
  - < 具体の取組 >
  - ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策
- 流域対策の目標を定め、  
役割分担に基づく流域対策の推進  
  - < 具体の取組 >
  - ・雨水浸透阻害行為の規制
- あらゆる治水対策の総動員  
  - < 具体の取組 >
  - ・更なる洪水調節施設の検討
  - ・「田んぼダム」の取組
- 多面的機能を活用した治水対策の推進  
  - < 具体の取組 >
  - ・遊水地内の利活用
- 既存ストックの徹底活用  
  - < 具体の取組 >
  - ・利水ダム等の治水活用

## 被害対象を減らす

- 溢れることも考慮した減災対策の推進  
  - < 具体の取組 >
  - ・浸水被害防止区域の検討
  - ・土地利用や住まい方の工夫

## 被害の軽減・早期復旧 ・復興

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し  
(2°C上昇下でも目標安全度維持)  
  - < 具体の取組 >
  - ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策
- 溢れることも考慮した減災対策の推進  
  - < 具体の取組 >
  - ・粘り強い河川堤防の検討・整備
- インフラDX等における新技術の活用  
  - < 具体の取組 >
  - ・河川管理施設の自動化・遠隔化
  - ・ワンコイン浸水センサー

# 円山川水系流域治水プロジェクト 【位置図】

～山から海までコウノトリ羽ばたく円山川流域をみんなで治める流域治水対策～

## ●グリーンインフラの取り組み 『コウノトリが生息していた頃の多様な生態系を目指した生態系ネットワークの形成』

○円山川の下流部はヨシ原や干潟に代表される湿地環境が多く残され、平成17年より野生復帰への取り組みを進めているコウノトリをはじめとする様々な生物を育む国際的にも重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録されるなど、コウノトリの野生復帰に向けた取り組みが流域全体に広がっている。  
 ○コウノトリが生息していた頃の多様な生態系の再生を目指し、中郷遊水地整備とあわせて湿地環境を創出することにより動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生に取り組むなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



### ●自然環境の保全・復元などの自然再生

- ・湿地再生
- ・多様な流れの再生・創出
- ・環境遷移帯創出（陸域と水域の連続性の確保）

### ●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成

- ・コウノトリをはじめとした、質の高い生物の生息、生育場の創出

生態ピラミッド

### ●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・加陽大規模湿地における地元地区、自治体と一体となった維持管理
- ・小学校と連携した水生生物調査（環境学習）
- ・官民学と協働したアユの産卵場造成実験
- ・地域と協働したカワラハハコなどの希少種の保全活動
- ・コウノトリ野生復帰推進連絡協議会において、各種団体の取組状況や課題を共有しながら施策を推進





# 気候変動を踏まえた流域治水における砂防と森林・治山の連携 円山川水系

## ●土砂・洪水氾濫対策 ●土石流対策

大雨で山地から流出した土砂が河床を上昇させ、土砂や泥水の氾濫を引き起こす土砂・洪水氾濫に対して、河床変動計算等の数値シミュレーションによって、被害の予測と、それを防ぐための砂防施設の整備を行う。

平田川砂防堰堤  
：豊岡市出石町荒木



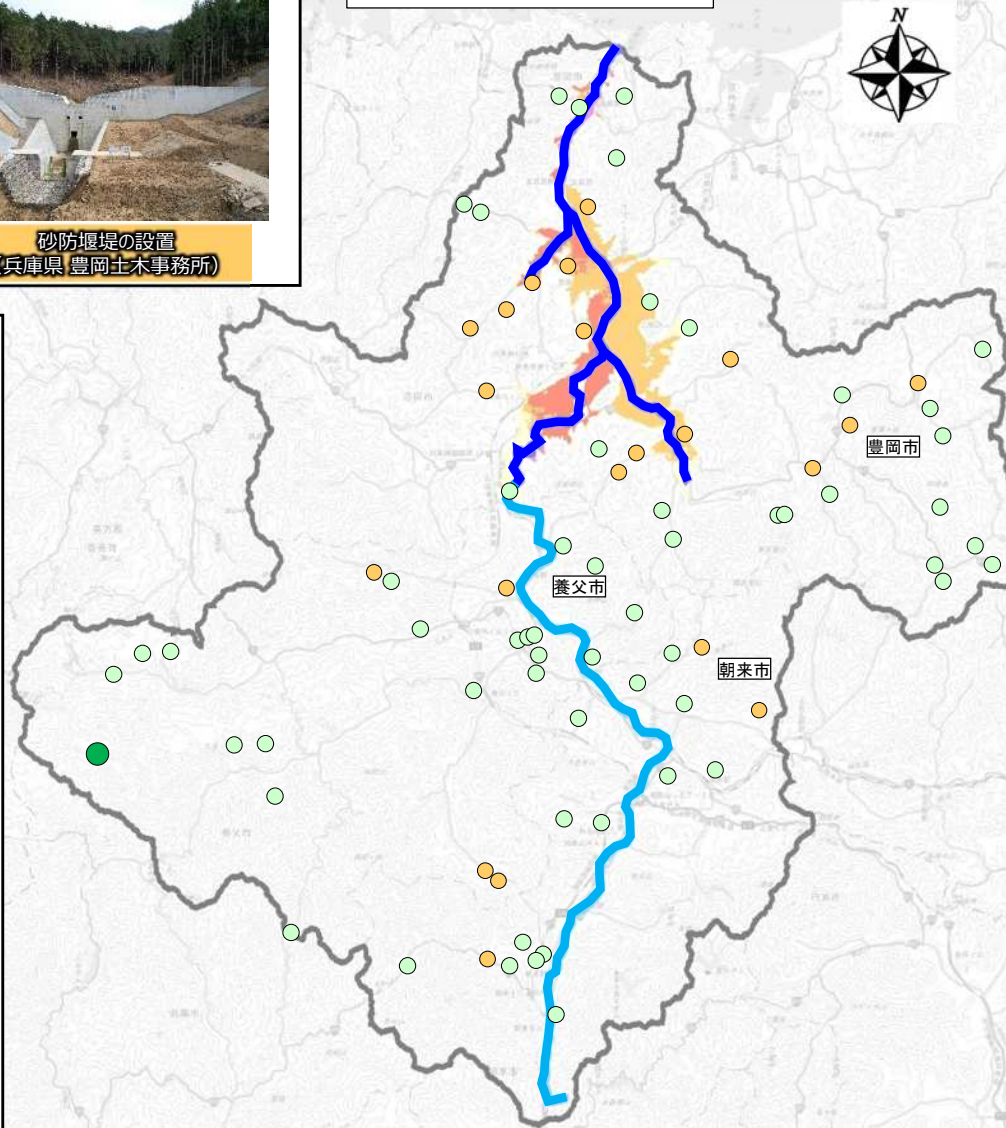
砂防堰堤の設置  
(兵庫県 豊岡土木事務所)

入佐川左支溪第二砂防堰堤  
：豊岡市出石町宮内



砂防堰堤の設置  
(兵庫県 豊岡土木事務所)

各機関の近年の事業箇所	
・林野庁 兵庫森林管理署	：●
・兵庫県（砂防）	：●
・兵庫県（治山）	：●



## ●森林整備・治山対策

間伐等の実施や荒廃山地の復旧・予防対策等による森林の維持造成を通じ、山地災害発生の防止や森林の浸透・保水機能の維持・向上対策を推進する。

治山対策：豊岡市出石町上村



治山ダムの設置  
(兵庫県 豊岡農林水産振興事務所)

横行国有林：養父市



森林の水源かん養機能を高める間伐  
(林野庁 兵庫森林管理署)

## ●流木対策

森林整備や治山ダムによる流木発生の抑制、透過型砂防堰堤や流木捕捉施設による流木の捕捉を、林野事業と砂防事業が連携して一体的に実施することで、流域全体の流木被害を防止・軽減する。

横行国有林：養父市



丸太筋工の実施  
(林野庁 兵庫森林管理署)

治山ダム：朝来市山東町柴



部分透過型治山ダムの設置  
(兵庫県 朝来農林振興事務所)

高谷川砂防堰堤

：朝来市和田山町白井



砂防堰堤の設置  
(兵庫県 養父土木事務所)

土肥土川砂防堰堤

：豊岡市大谷



砂防堰堤の設置  
(兵庫県 豊岡土木事務所)

各事業の効果は、上記に分類した対策に限定されるものでなく、各対策が一体的に流域治水に寄与している。